

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101208		
法人名	オーロラ・ケアネット株式会社		
事業所名	うらの郷ミニ大通・グループホーム		
所在地	札幌市中央区北3条西12丁目2番2号		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170101208-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・チームケア ・入居者の状態や好みに合わせた食事を、三食手作りでバランス良く提供している。 ・入居者同士が仲間意識を強く持ち、日々の生活の中で協力し合う場面が多い。 ・医療との早期の連携と対応。 ・担当者が充分にアセスメントを行い、きめ細かいケアプランを作成・実施している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市の中心部に位置し、大通公園や植物園に近く、札幌駅や地下鉄駅にも近いなど交通の便がよい自然環境に恵まれた1ユニットのグループホームである。3階建ての建物の3階部分が事業所になっているが、居間からはミニ大通りの風景が眺められ、樹木も多いことから季節ごとの景色の変化が楽しめる。全体が広い造りで、車椅子対応のトイレや洗面台、対面式キッチンなど設備が整っている。ソファや椅子、カウンターテーブルなど利用者は好みの場所で自由にくつろぐことが出来る。家族が頻繁に事業所を訪問し、運営推進会議にも多数の家族が参加し、活発に意見を述べており、毎日の食事にも家族の意見が反映されている。月例会議やカンファレンスで職員は活発に意見交換し、夜勤等の職員も事前に意見を提出することで会議に参加している。アセスメントシートや介護計画等の書類の更新も細やかで良質なケアが行われている。高齢で介護度の高い方の割合が多くなっているが、外出行事としてJRタワー展望台を見学して食事をしたり、旭山記念公園の桜や大通公園のバラを鑑賞するなど楽しみも多い。利用者は観葉植物の置かれたリビングに集い、毎日の暮らしを職員のサポートで和やかに過ごしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、ホームの理念を掲示し、申し送り時や会議時に唱和し共有、チームケアとしての実践に繋がっている。日々のケアやケアプラン評価時等に理念を振り返る事も多い。	地域密着 型サービスの意義を踏まえた法人の理念に、グループホーム独自のケア理念、「あなたの気持ちになって のんびり、笑顔で安らぎのある暮らし」を、食堂の目につく個所に掲示し、毎朝の職員の引継ぎ時に唱和しているほか、理念を振り返る機会も多い。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の行事への参加やミニ大通お散歩祭りに出掛けたりしている。町内会のろうそくもらいは毎年子供達と触れ合え、入居者にも好評のイベントになっている。又使用しない衣類を近所の方が届けてくれる事もあった。	町内会での清掃に参加し、施設長が町内会会議に参加して意見を述べている。また、七夕の「ロウソク出せ」行事の日には子供たちが事業所を訪問してくれる他、近くの幼稚園の運動会や学習発表会に招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生・見学者の受け入れ、ホーム通信、自社ホームページでも啓発に取り組んでいる。通信は家族だけではなく、一階エレベーター前にも掲示している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一回実施。ヒヤリハットの報告や行事・日常をスライドで伝えたり勉強会などを行い、ご家族からの意見や悩みなど意見交換をした事を職員間でも共有。ケアへ繋げている。	運営推進会議を年6回開催し、地域包括支援センター職員や町内会役員等に参加を得ており、家族の参加も多い。会議では、避難訓練や行事などの報告や意見交換を行い、外部評価についても話し合っている。議事録を家族全員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの空き状況を伝えたり、分らない事などをその都度教えて頂きながらケアサービスに取り組んでいる。昨年は実地指導もあり、細かなアドバイスを頂き、参考にしている。	運営推進会議では毎回地域包括支援センター職員に参加を得ている。市の連絡会議や区の管理者会議に毎回参加し、何か不明なことがあれば市に相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	11項目は目に付くところに掲示しており、又その場で不適切なケアにならないよう、職員同士でも注意し合っている。外部研修にも参加し、会議で報告し職員全員で共有している。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、事務室や食堂に禁止の対象となる具体的な行為の11項目を掲示している。また、身体拘束の研修会に職員を参加させているが、全職員の11項目への理解は十分とは言えない。日中は玄関は施錠していないが、安全に暮らせる工夫をしている。	「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」について、日常的に確認し合う機会を設けて職員の理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底	日々のミーティング、ケアの中で気付いた時は声か		

うららの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	け合い、振り返り、防止に努めている。又入居者の傷や内出血など不自然な物はないか、見過ごさないように記録上にも残して把握に努めている。		

うららの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加などで機会を作っている。又会議での報告を通し、他職員も共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の時間を設け、重要事項説明書を用い充分に説明し、ご家族の希望や不安などを聞き、記録に残し誤解が生じないよう、理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に積極的に意見や希望を求め、家族ノートへ記入し職員間で共有、速やかに対応する事を心掛けている。又ケアプランの説明前後にも入居者・ご家族に希望や意向を聞いている。	家族が頻繁に事業所を訪問しており、運営推進会議にも多数の家族が参加し、活発に意見を述べている。毎日の食事にも家族の意見が反映されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との年に二回の個人面談はあるが、代表者とはない。会議などで出た意見・提案は反映される事もある。	毎月の月例会議やカンファレンスで職員は意見を交換している。夜勤・休日等で欠席する職員は事前に意見等を「カンファレンスノート」に記載することで会議に参加しており、議事録も作成している。年2回の個人面談で、管理者が職員の意見を聞いており、勤務体制等、可能な限り希望に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握し、人材補充など努力してくれているが、人手不足は続いている。以前より手当などを考慮してくれているが、明確な連絡が少ないので、職員の周知が曖昧なところも。しかし清掃などを通じて少しずつ環境の整備をしてくれているのは、全職員が感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせた外部研修への参加の他、内部研修も年に数回あり、振り返りの機会になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の研修会への参加で、他事業所の意見を聞いたり交流する機会があり、気付きや悩みの解消になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談やアセスメントを行い、職員間で共有している。一緒に過ごす事を意識し、疑問点はご家族にも確認し、何を求めているか探っている。そのため、ケア記録も通常とは違う物を使用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面会時にご家族の思いや悩み・要望を聞き解決出来るよう努めている。最近の些細な出来事もまめに伝えたと共に、ご家族の体調なども尋ね一方的にならないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会議・日々のミーティングで情報の共有とケアの方向性などをこまめに話し合っている。得た情報は記録に残し、マーカーで印を付け次のケアの参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が困っている場面に「大丈夫?手伝おうか?」と声をかけてくれたり、他入居者を「こっちにおいで」と呼んでくれたりと、普段から助けられている事も多い。互いに支え、助け合う毎日。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会がケアを行う上での力になった場面や、ご家族からの提案が発展していったケースもある。又散歩に連れて行ってくれたり、おやつを食べさせる介助をしてくれたり、日常の中でもフォローして頂いている。ご家族も含めてのチームケアとなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや手紙の投函の代行を行っている。面会後にまた来て頂けるような声かけも行っている。	2～3年前までは利用者の友人等の来訪もあったが、利用者及び友人の高齢化が進んできたことから家族以外の訪問は少なくなっている。事業所では、馴染みの美容室など可能な限り関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不安を聞いてあげたり、亡くなった子供さんのいない寂しさを受け止めてくれたりと、入居者同士で支え合っている場面は多い。居室に一人でいるのは寂しいと、食堂に来る方もいる。普段から笑い声が絶えない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先を見舞ったり、葬儀に参列したりしている。後日連絡を取る時は近状や体調を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	シーツ交換や入浴等普段から一対一で話せる機会を作ると共に、評価やケアプラン作成時にはより詳しく聞き取りを行い、どういう生活をしたのか検討している。困難な場合も表情や動作、ケア記録から深く追求。	「アセスメントシート」を状況の変化に応じて見直し、職員間で情報交換し利用者の思いや意向を把握する努力を行っている。状況の変化が見られない場合でも半年に一回は見直し、利用者の表情や行動から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントの他、センター方式A-1～B-4までの記入をご家族に依頼。又その都度ご本人・ご家族から聞き取り記録し、職員間で共有。普段の会話からも広げられるよう意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かな引継ぎ、観察、話し合いで情報共有に努めている。昨晚の睡眠状況や体調なども考慮し、その日の暮らし方の把握に努めている。記録上もマークで印。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の意見や希望、事前の職員間の意見交換、記録から丹念にニーズを汲み取った上で、三ヵ月毎にチームとして密なケアプランを作成。記録はマークで色分けし、更新計画の作成や対応に活かせるよう工夫。	介護計画は、利用開始時に作成した後、1か月、3か月で見直しているが、状況に変化がある場合はその都度見直している。日々の「ケア記録」も介護計画を意識しながら項目ごとに色を変える等の工夫で職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日のケア記録は職員同士で協力して記入し、記入もれのないように努めている。又記録の実践・結果・気づき・工夫等ポイント毎にマーク5色で色分け、ケア上の注意点としても評価時にも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの新年会に呼んでもらったり、事務所職員が業務を協力してくれたり、その都度連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・散歩・祭りに行く他、日々のゴミ出しで町内の方と挨拶を交わしたり、幼稚園行事にて赤ちゃんを抱っこさせてもらったりと触れ合う機会もあり。町内会のろうそくもらいは毎年お楽しみのイベント。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、週一回の訪問看護で質問や相談が出来、入居者の安心に繋がっている。又ご家族が往診に立ち合ったり、Drからご家族に病状や治療についての説明もしてくれており、良好な関係となっている。	協力医療機関の内科・精神科の医師が月2回往診してくれるほか、協力歯科医が必要に応じて往診してくれる。従来からのかかりつけ医等の受診は家族が支援している。医療情報は「医療連絡ノート」に記録して全職員で共有している。	

うららの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護や24時間体制での連絡体制により、細かな健康状態の報告や相談を行っており、すぐにDrに連絡、適切な往診・受診・看護へと繋がっている。介護職員にとって心強い存在。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供をしている。入院中は見舞いに行ったり、ご家族と連絡をとり、ホームでの生活に戻れる段階の把握や今後に向けての相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成、入居時同意書を得ている。又Drやご家族とも必要に応じ話し合い、希望や今後の方向性を検討している。看取りの研修も行い、知識や意識を深めている。最近看取りもあり、改めて職員全員の意識も深まったと考えられる。	利用開始時に「うららの郷ミニ大通りグループホームにおける重度化した場合の指針」を本人と家族に説明し、署名捺印を得ている。その後は、状況が変化した都度、医療関係者も交えて家族等に口頭で説明し記録している。昨年は事業所での看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを配置、ADLの使用法の内部研修や防火外部研修などに参加し、会議で報告。又会議内でも度々緊急時対応について話し合いがもたれ、意識を高めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら、年二回避難訓練を実施。その様子を消防署の指摘などとともにまとめ、全職員が把握。会議内で災害時対応や必要な備品等について話し合っている。	夜間想定避難訓練を、消防署の協力を得て年2回、実施している。訓練時には地域の方にも声かけを行っている。災害時の備品等も用意され、救急救命訓練は随時職員を参加させている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人、状況にあった声かけやタイミングを見極め、対応している。声のトーンも意識し、又他職員にも必要があれば注意をしている。	利用者の呼びかけは、「名字」にさん付けを基本とし、声のトーンや大きさ等が不適切な場合は管理者が注意しており、職員同士でも注意し合っている。個人記録等は事務所の書棚等で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたい場所や食べたい物を外出レクや行事食などで反映させたり、表情や態度からも察し、希望に近付けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前後の状況に合わせ食事を遅らせたり、無理に起こしたりせず、体調・リズムに合わせ負担のないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自選した洋服やご家族が購入してくれた洋服を着るよう起床・入浴時に支援。必要に応じ眉毛を描く支援なども。男性入居者には毎朝髭剃りを促している。		

うらの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から衣付けや形成など数人で協力して手伝ってもらっている。野菜切りや盛り付け拭き物なども個人に合わせ、お願いしている。食事中も会話し、楽しい雰囲気。	朝食とおやつは事業所で用意し、昼・夕食は食材会社の材料を事業所で調理している。約半数の利用者がテーブル拭きや料理の下ごしらえを手伝い、プランターで育てた香辛野菜やミニトマト等も食卓に上っている。利用者の誕生日には、ケーキでお祝いし、時にはジンギスカンを囲んだり、JRタワーでの外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせ食事・水分量をチェックしている。ゼリーやトロミなども併用。ミキサー食も見た目を大事にした盛り付けを心掛けている。日中水分の足りない方は夜間にも水分を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、朝・昼・夕の口腔ケアを実施。残渣物が考えられる方にはおやつ後のケアも行っている。うがいが困難な方には口腔用スポンジを使用している。義歯使用の方には夜に洗浄剤につける支援を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に排便の有無や尿量を記入し、必要に応じ誘導や介助をしている。失禁が増えてきた方にはご本人・ご家族と相談しパットを使用してもらっている。	全員の排泄パターンを全職員が把握し、水分量は24時間記録している。日中は、排泄支援の必要な利用者について排泄回数を「生活リズムパターンシート」に記録し、夜間については全員の排泄を記録し、チームケアで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供、便秘時はプルーンやヨーグルトなども活用、又普段から水分を促している。Drや訪看とも相談し、下剤や整腸剤の調整も随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	負担にならないよう場面によっては二人介助したり、休息の時間が作れるよう配慮している。好みの温度や同性介助など希望に沿いながら、又会話なども楽しみながらゆっくり入ってもらっている。	特別に曜日を固定せず一人平均週2回、午後の時間帯に入浴している。職員の声かけを工夫したり、利用者のタイミングを見ながら気持ちよく入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムがあり、入床時間もそれぞれ。全介助を要する方は昨夜の睡眠状況やその時の体調などを配慮しながら支援。又室温・湿度・体勢などにも細かく配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルや医療ノートがあり、すぐに確認出来るようになっていく。変更時はノート・ポートに記入・口頭にて周知し共有。症状変化は記録に残し、マーカーにて印をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、カラオケ等の楽しみの他、ゴミ捨てや金魚の餌やりなど個人としての役割もある。食事の準備・後片付けでも義務や責任感を持って参加される方も。		

うららの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿えない時もあり、又入居者からもあまり希望がないが、買い物や外出レクの他ブランターの水やりや収穫、ゴミ捨て、外の空気を吸いに玄関まで…と機会を作ったり、促したりしている。	天候の良い時期には、車椅子の方も含めて散歩ができるように支援している。また、外出行事としてJRタワー展望台を見学して食事をしたり、旭山記念公園の桜や大通公園のバラを鑑賞するなど楽しみが多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少ないが自己管理している方もいる。買い物で好みのお菓子を選んだり、外出レクでご家族にお土産を購入する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常時行っている。取次ぎは番号を押すところまで対応。届いた手紙を見せてくれ、思い出話も。手紙の投函も代行する。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクの写真を貼ったり、花を飾ったり、季節に応じた飾り付けをしている。室温や換気、明るさにも気を配り、又テレビの音や物音、声の大きさにも注意している。食事作り中に匂いに誘われ、様子伺いに来る方もいる。	共用空間では加湿器を使用しているが、廊下の手摺りに乾燥防止のため濡れたタオルを掛けて適度な湿度を保っている。広く大きな窓から市内中心部のビルや植物園の樹木や学校へ通う児童の様子が見える。観葉植物の置かれたリビングに集い、利用者は和やかに職員と話し過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル周りで皆が自然に集まっておしゃべりしたり、数か所にソファを配置し、自由に過ごせるようにしている。皆の輪に入れるよう誘導したり配慮も。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある物はご家族が用意し、ご家族の写真が貼ってあったり、椅子があったり、一人一人が居心地良く過ごせている。又危険がないように、もしくはご本人の希望で配置を替えたりなどの工夫も。	洗面化粧台とクローゼット、照明器具が備えられている部屋に、自宅から持ってきた家具や洋服掛け、家族の写真を飾り、テレビ、冷蔵庫、ぬいぐるみなどを配置し自分らしく安心して暮らせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には各自手作りの表札がある。浴室・トイレにもわかりやすいイラスト案内を表示。流し忘れを防ぐ事も出来ている。長い廊下手摺を使い、歩行訓練される方も。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 うらの郷ミニ大通・グループホーム

作成日：平成 30年 3月 6日

市町村受理日：平成 30年 3月 7日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	職員の目のつくところに、身体拘束禁止の対象となる 具体的行為の11項目の提示をしているが、全職員の 11項目への理解は充分ではない。	全職員が11項目を理解する。	月例会議にて身体拘束についての内部研修を行う。	2ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。